

# 東京～ニューヨーク

フライ

国際航空アナリスト  
民間航空評論

秀島 一生



Issei Hidemitsu

私が日本航空に国際線乗務員・スチュワードとして入社したのが一九六八年です。一九九八年まで三〇年間フライ特を担当しました。日本国際線航空会社は、当時JALしか存在しないという時代です。当時は客室乗務員数三〇〇名ほどの小さな所帯でした。現在では六、〇〇〇から八、〇〇〇名がこの仕事に従事していると聞いていますから、時代の流れを感じます。

パイロットは安全のために、一種類の機材（飛行機）しか操縦しません。これは混乱を防ぐためです。一方、客室乗務員はどうかと申し上げれば、過去に乗務してきた、また年に一度の脱出などの訓練チェックさえ受けねばなりません。私の場合、試しに数えてみましたが、一五以上の機種に乗務してきたことが改めてわかりました。消火器や酸素ボトルなど非常用機材の場所、脱出時のスライドの開け方、などそれぞれ違います。

私が初めてニューヨークにまいりましたのが、一九六八年。エンパイアステートビルをはじめとして、パンナムビル、クライスラービルなど、中には一〇〇階以上の高層ビルが並び立つ街です。金融街の通りやビル風の強さに圧倒されたり、エンパイアステートビルがエレベーターを乗りついで一〇二階まで行くといふことに何よりも驚いたものです。

またミュージカルには目がないたれに限られた時間のなか、本場ブロードウェイの公演を縦横無尽に切り盛りしておりました。例えば、かの「CATS」などはプロードウェイでは三回、更にロンドンで二回も見てしまいました。これは元軍人では、スケジュールにもりますが一六時間ぐらいだったと記憶しています。因みに私はホノルルには、仕事

## 摩天楼（スカイスクレーパー）に息をのんだ！

導入し、競い合いました。  
さて、肝心の「Lost Night」です。例えば、ハワイ便ホノルルフライトで、乗務員は「一泊三日」が普通で徹夜で対応せざるをえません。つまりベッドで寝ることはありません。徹夜明けでホノルルに着くと多くは倒れこむように眠ります。しかし夕方食事を済ませると六、七時間しかありません。寝ようと試みても時差のためなかなか寝付けません。次の朝は、便にもよります。東京への帰着便は、早朝のPick upです。寝坊しないように「寝なければ！」の想いに駆られることとなります。乗務前の飲酒によりパイロットが解雇されるという事件がいくつか報道されました。この背景にはクルーの「休憩時間の短さ」もある！と私は認識しております。眠るための睡眠薬や少量のアルコールは当時の暗黙の了解であつたように思います。確かに滞在時間は、スケジュールにもりますが一六時間ぐらいだったと記憶しています。因みに私はホノルルには、仕事

とプライベート含めて三三七回も訪れることになりました。

私が初めてニューヨークにまいりましたのが、一九六八年。エンパイアステートビルをはじめとして、パンナムビル、クライスラービルなど、中には一〇〇階以上の高層ビルが並び立つ街です。金融街の通りやビル風の強さに圧倒されたり、エンパイアステートビルがエレベーターを乗りついで一〇二階まで行くといふことに何よりも驚いたものです。

またミュージカルには目がないために限られた時間のなか、本場ブロードウェイの公演を縦横無尽に切り盛りしておりました。例えば、かの「CATS」などはプロードウェイでは三回、更にロンドンで二回もあり戦後も「日本育英会」に勤務して、いた父の影響です。なぜか映画を見ていました。これは元軍人では、スケジュールにもりますが一六時間ぐらいだったと記憶しています。因みに私はホノルルには、仕事

## Lost Nightを乗り越えて

あるので、混同しないようにする

ことがとても大変でした。

回顧される方もいるかと思い、当

時の主な旅客機を並べてみます。まずはDC-6Bというプロペラ機

で、新潟線や旧ソ連方面にも飛んでいました。その後、航空機のジェット化を経てコンベア社のa bタイプ、同じくCタイプ、ダグラス社の

DC-8-30・50シリーズ、DC-8-62シリーズ（北回り欧洲

線、南回り欧洲線、マニラ経由シンド

）、東南アジア中心に使われたD

C-8-61が登場し、更にDC-1

0と続きます。そしてよいよ広

胴型機が現れます。それがボーイン

グ747という大型機で、長距離飛

行用や国内線向け五五〇人乗りの

タイプもありました。その前に国内

線の花形ジェット・ボーイング72

7も活躍しました。この機種は、か

つて赤軍派によつて北朝鮮へとハイ

ジャックされたことでも知られています。そして、ボーイング767は

コックピット二人乗務の先駆けとな

ライドの開け方、などそれぞれ違

いました。JR本八幡駅そばに映画館がありましたが、当時の映画の世界はいわゆる五社協定がありま

して、八幡の映画館は、東映と大映のみの上映でした。初期の白黒映画

「ジャコ萬と鉄」もここで見ました。

主演の高倉健さんは、数十年の後

にファーストクラスで二、三時間も

雑談することになる機会を得るな

ど予想だにしませんでしたが、映画

や音楽が私の人生に彩を添えたこ

とは間違ひありません。

た「レストランニッポン」オンラインで

した。今回の訪問で、ブルックリンという新たな側面を知りました。

今の東京の姿はどうなのでしょ

うか？ マンションラッシュ、東京

駅の改修に続き駅前巨大ビルの

出現、渋谷駅周辺の大改修など、

ニューヨークとは色合いが変わるも

の、世界有数の高層建築都市と

してその変貌を遂げていることに

間違ひないと感じます。羽田空港か

ら国際線は成田空港へと移転され、

再度羽田に国際線を戻すという「猫

の目」ですが、成田国際空港には五

年後に三本目の四、〇〇〇kgの滑

走路が完成予定とのこと。このよう

な国際空港の拡張、ビルやマンショ

ンの増加に加え、人々の人生を豊

かにするエンターテインメントが加

われば、東京とその周辺は、いずれ

ニューヨークを超えていくことと思

います。

今年アメリカ大手エアラインの国際会議に招待を受け、出席しました。ブルックリンで開催されたため泊ましたが、再び驚かされたものです。正直に言えば、国際線乗務

好きで毎週映画館に連れて行っていました。これは元軍人では、スケジュールにもりますが一六時間ぐらいだったと記憶しています。因みに私はホノルルには、仕事

食事も和食で機内食を手掛けていました。行動していたのはマンハッタンだけで、四二番街や五番街ランプタワーなどの周辺がほとんど。ながら、行動していたのはマンハッ

ターン